

鳥

クマゲラ

クマゲラ (black woodpecker) は、日本に生息するキツツキ科の中で最大種です。クマとは「クマ (bear)」の意味で、名前の「クマ」は体が大きいということを表しており、アイヌの人々の間では「クマの居場所を教えてくれる鳥」や「道に迷ったときに道案内をしてくれる鳥」と崇められていたそうです。

阿寒湖では、クマゲラの鳴き声を聞くことができるかもしれません。この地域に多くのクマゲラが生息していることによるもので、これは日本では珍しいことであり、観光客からはその鳥を見る良い機会になるでしょう。これは阿寒の自然環境の豊かさの証です。クマゲラは、くちばしを使って、大きな木や朽ちた木に穴をあけ、木の幹にいる幼虫を食べます。森のいたる所で、クマゲラが木をつつく音が聞こえます。1組のつがいの縄張りは、約 200 ヘクタールに及び、厳しい冬の間も、この地域に留まります。つがいは、交代で卵を孵化させ、ヒナに餌を与えるのも分担して行います。

クマゲラは、体長 50 センチ前後にまで成長し、翼を広げると、70 センチ近くになります。真っ黒な体と真っ赤な頭で見分けがつかず、全国的にクマゲラの個体数はとても少なくなっていることもあり、1965 年、国の天然記念物に指定されました。

オジロワシ

オジロワシの成鳥は、体長 70~100 センチで、翼を広げると 180~240 センチです。冬になると、ユーラシア大陸北部から北海道へやって来る渡り鳥です。ウミワシの 1 種であることもあり、道内では、多くの個体が海岸沿いに生息していますが、まれに阿寒湖で越冬する個体もいます。海岸沿いでも内陸でも大きな木の梢に巣を作って生活しています。この鳥は、水面を低く飛んで魚を捕まえ、空から急降下して、地上の小さな哺乳類を捕まえます。阿寒湖周辺のオジロワシはアメマスのような大きな魚を食べることで知られています。

オジロワシはさまざまな危機に面しています。北海道での森林伐採は営巣やねぐらの減少を引き起こしました。鉛弾を用いた狩猟で殺されたエゾシカを食べ、鉛中毒になり、死亡する個体もいると言われています。オジロワシの保護のため、北海道では、狩猟で

の鉛の玉の使用が今では禁止されています。1970年、国の天然記念物に指定され、現在では、環境省のレッドリストで絶滅危惧種に分類されています。